

第167回 教育研究評議会 要録

日時 平成30年12月19日(水) 12時59分～15時30分
場所 第一会議室
出席者 今岡学長, 藤原理事, 小路田理事, 小川理事, 井深理事, 成瀬副学長, 吉村副学長,
野村文学部長, 林井理学部長, 黒子生活環境学部長, 高田人間文化研究科長,
中山, 石崎, 春本, 上江洩, 久保, 松岡, 棚瀬, 三木各評議員
欠席者 三成副学長
列席者 才脇学長補佐, 酒居監事, 福田監事, 太田情報管理活用監, 桑原国際課長,
川村研究協力課長, 西田財務課長, 清水施設企画課長, 鱸学務課長, 矢野学術情報課長
林学生生活課学生生活係長, 清水入試課学部入試係長

議事に先立ち, 前回の記録確認。

I 審議事項

1. 学内諸規程等の制定について

(1) 国立大学法人奈良女子大学学則の一部改正について

学務課長から, 資料1により説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認し, 役員会へ付議することとした。

(2) 国立大学法人奈良女子大学における政府調達に関する協定その他の国際約束に係る物品等又は特定役務の調達手続きに関する規則の一部改正について

財務課長から, 資料2により説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認し, 日本国と欧州連合との間の協定の効力が生ずる日から施行することとした。なお, 今後外務省又は文科省から改正内容の修正について指示があった場合, 文言修正については学長に一任することとした。

(3) 国立大学法人奈良女子大学外国人研究者受入要項の一部改正について

国際課長から, 資料3により説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認し, 本日付けで施行することとした。

2. 工学系学部の設置について

学長から, 資料4-1により, 奈良教育大学と協議を進めている工学系共同教育課程構想に関して, 本学を取り巻く環境に大きな変化が生じたことにより, 当初予定より1年前倒しし平成33年度設置に向けて検討を進めたいとの考えが示され, 資料4-2から資料4-6により工学系共同教育課程設置構想の内容, 設置までの作業スケジュール, 高校生を対象として実施した工学教育についてのアンケート調査結果, 及び日本経済団体連合会の大学教育に関する提案の概要について説明があり, 当初の予定より前倒しして平成33年度設置に向けて検討を進めることについて諮られた。出席者からの意見や質問は以下のとおり。

棚瀬評議員から, 新学部の名称, 機械・電気工学分野を含めた理由, 新学部の教員及び学生定員の拠出元について質問があり, 学長から学部名称は「工学部」とする予定で, 機械・電気はSociety5.0の中心ではないが, 工学の柱の分野であるということより産業界で活躍するために必要と判断し含めた。どの学部学科のポストを拠出するかは1月の会議に示す予定との説明があった。

また, 今回の構想は現在の産業界からのニーズには対応しているが, この先ニーズが変わったときに果たして生き残れるのか, 学部教育のみの工学部で卒業生が社会でどこまで活躍できるのかが不安, 高度な専門教育の担保をどのように考えているのかとの意見があった。

上江洩評議員から, 入試方法について質問があり, 学長から学部一括募集の入試を実施し, 入学後に専攻を選択させることを考えているとの説明があった。

野村文学部長から, 設置審査や入試予告を考えるとスケジュール的に不可能ではないか, 母体と

なる学科があり、熱意のある教員が関わるのであればまだしも、年度末にかけて忙しくなる時期に、校運を左右するようなこのプロジェクトはミスが許されず、作業を進めるのはリスクがあるとの意見があった。

石崎評議員から、工学部構想を検討することには反対しないが、平成33年度設置については反対。成功に導くためには、ニーズ把握のためのリサーチや入試内容の検討を十分にするための時間が必要であるし、施設整備についても予算面やスペース面が不安、1年前倒しの理由が、学内構成員を動かすための動機付けとしては足りないとの意見があった。

久保評議員から、平成33年度設置についてはスケジュール的に難しいと思う。工学部設置に向けた検討と並行して、教員や学生定員の拠出元の学部の学科構成等についても検討も進めていくべきであるとの意見があった。

三木評議員から、健康・スポーツ工学分野の担当教員を既存のどのポストから拠出するのか、医学に関する教育はリベラルアーツでできるような内容ではないと思う。また、教員の具体像が示されておらず、工学教育の特色が見えない、受験生に対して卒業後の進路のイメージが湧くような内容にしてほしいとの意見があった。

中山評議員から、平成33年度は1法人2大学実施前となるため、奈良教育大学の学生定員を活用する当初計画と相違するのではないかと、また、大学入試改革に関する情報量が多くなるので、本学の情報が埋もれてしまうリスクもあるし、受験生にアピールできる内容が見えない、平成33年度設置に向けて作業を進めていくためには、スケジュールがタイトであり、校運をかけたプロジェクトなので慎重に進めるべきであるとの意見があった。さらに、奈良教育大学との合意のリミットについて質問があり、学長からは、1月中に奈良教育大学と合意できなければ、平成33年度設置は断念するとの説明があった。

棚瀬評議員から、文科省に意思表示をした以上、一法人二大学は避けられないと思う、共同教育課程について奈良教育大学との合意に時間がかかる場合、平成33年度設置は難しいということで白紙に戻すのではなく、引き続き検討したほうがよいと思うとの意見があった。

以上、慎重な意見も多く出されたが、審議の結果、これらも考慮に入れた上で平成33年度設置に向けた検討を進めることを承認し、役員会へ付議することとした。また、1月の本会議において工学系学部への教員及び学生定員拠出の具体的内容等を示し、改めて審議することとした。

3. その他 特になし

II 報告事項

1. 第61回経営協議会及び第233回役員会について

学長から、第61回経営協議会及び第233回役員会の審議概要について、資料5-1及び5-2により報告があった。

2. 奈良教育大学との連携協議について

学長から、資料6により、国立大学の一法人化複数大学制度等に関する調査検討会議中間まとめ(素案)の概要について情報提供があった。

3. 卒業生の振り返り調査結果について

小路田理事から、資料7により報告があった。卒業後5年など節目となる対象者の振り返り調査の実施についても検討しているとの説明があった。

4. 大学院副専攻文化工学プログラム 第2回シンポジウムの開催について

小路田副学長から、資料8により報告があり、各部局での周知依頼があった。

5. 交通機関の運休に伴う授業の取扱について
学務課長から、資料9により報告があった。
6. 奈良女子大学理学部規程の一部改正について
理学部長から、資料10により報告があった。
7. 教職員研修の開催について
小川理事から、資料11により報告があり、各部局での周知依頼があった。
8. なでしこ基金（創立百十周年記念事業特定基金）の受入状況について
学長から、資料12により報告があり、学内者からの寄附について協力依頼があった。
9. 各室等からの報告について
特になし
10. その他
 - (1) 新年互礼会について
井深理事から、平成31年1月4日（金）16時30分から大学会館2階大集会室で開催予定との案内があり、各部局での周知依頼があった。

以上